Fusyo Collaboration letter

1月　28日　　No.41　　文責　廣田　秀俊

体験をつなぐ環境作り

先日、附属幼稚園と附属小学校の職員が集まり、幼小合同研修を行いました。今回の研修では、子ども主体の保育・教育について、園と学校の立場から学びを共有しました。

研修の中で職員から「子供たちの学ぶ場、選ぶ場をつくり、主体性を持たせることが大切」「子供たち一人一人の気持ちをつないでいくことが必要」という声が聞かれました。

教職員である私たちは、子供自身が考え、選び、行動する経験を重ねることを大切にしています。そのために、さまざまな体験が生まれ、それらがつながっていくような環境を構成し、子供の姿や学びを丁寧に理解していくことを心がけています。日々の関わりの中では、「どうしたい？」「どう思う？」「どうする？」と問いかけながら、子供に寄り添い、思いを受け止め、認め、ほめていきます。こうした関わりを通して、子供自身が少しずつ自分で判断できるようになり、心と身体がうごく体験へとつながっていきます。

このような園での学びや経験は、小学校１年生のスタートカリキュラムへとつながっています。小学校では「園ではどうだった？」「どうしたい？」「どうしたらいいと思う？」といった声かけを大切にしています。この声かけが、子供たちの安心感となり、「やってみたい」という実践意欲を引き出しています。

１年生のスタートは、決してゼロからの取組ではありません。幼稚園・保育園で積み重ねてきた経験を受け止め、幼小連携・接続の取組を通して、子供一人一人の成長をこれからも丁寧に支えていきます。今後も園と学校が連携しながら、子供たちが安心して自分らしく学び、成長できる環境作りに努めて参ります。

また、これまでに育まれてきた子供の主体の学びは、２年生以上の学習や生活にもつながっています。日々の学校生活の中で子供たちは、「何のため？」「誰のため？」「どんなよさがあるの？」といった問いを自ら考えることを大切にしています。こうした問いは、公の意識を育てる土台となり、自分だけでなく周りの人を大切にする視点へと広がっていきます。その結果、子供たちは場に応じた行動を主体的に選び、安心・安全な学校生活を自分たちの力でつくろうとしています。